

宮の森



発行元・白鳥神社総代会

秋葉神社・祭神

白鳥神社から東へ直線距離で約500m。その小高い丘・加賀棚に白鳥秋葉神社がある。白鳥神社の末社である。この秋葉神社建立の経緯は、明治四十年四月三日、白鳥区全焼の大火が有った。その後も再三火災が発生、大正八年六月十四日、白鳥小学校全焼の火難が続いた。

この時、白鳥区民が緊急協議し、秋葉神社の創建を決めた。時の白鳥区長瀬上岩次郎は遠州の秋葉神社へお札を受けに行く。遠州秋葉神社は「火の迦具土神」を祭神とする、火難除けの神社。

白鳥の何処に祀るかを区民と相談、薬師谷と加賀棚の二カ所を選出、遠州秋葉神社のおみくじで加賀棚に決定。大正八年八月に上棟式が行われた。

棟札には次の通り記されていた。

白鳥区総大工

野々村勘太郎(63) 野崎松之助(55) 曾我巳之助

(50) 曾我吉之助(43) 荒井芳郎(34) 野崎太七(32)



寺田米吉(29) 白石為次郎(22) 森下権太郎(21)
野崎末吉(21) 大正八年八月七日 白鳥区長 瀬上岩次郎(46) と記されている。

その後、昭和九年に、拜殿が和田吉造一寄進で建立された。更に、昭和五十八年に、本殿の再建が成されている。平成二十七年三月、豪雪により拜殿屋根が全壊、総代衆で復旧、七月に完成させる。

毎年四月三日(明治の大火日) 午前十一時から防火祈願祭が、白鳥区自治会主催で行われている。

白鳥秋葉神社の祭神「火之迦具土神」(ひのかぐつちのかみ)とは、如何なる神なのか?

日本の神様の原点はイザナギ・イザナミの命夫婦である。この二人は沢山の神様を産んだ。

この夫婦が最後に生んだ神様が火之迦具土神である。

カグツチの神は生まれながらに火の神であった。

生まれる時、母・イザナミの陰部を焼いて生まれてきた。イザナミはそれが致命傷となり死んでしまつた。

イザナギは愛する妻・イザナミを出雲国と伯耆国の境にある比婆山に葬つた。そして激高したイザナギは、我が子であるカグツチの首を切り落とし殺してしまつた。

このときカグツチの血から岩石の神・火の神・雷神・水の神などの神が生まれ、カグツチ自身の体からも多くの神が生まれました。これは火山が噴火した時のイメージとなり、火の神となる。

人類が最初に火を意識したのは、火山や落雷による山火事などの自然エネルギーであった。火をコントロールできるようになると、人は生活に便利なエネルギーであることを知る。しかし、どんなに便利になっても火本来の脅威という側面を失われません。

これらの神はふだん人間の生活を守り、富を与えてくれるがしかし、その神を穢すようなことをして怒らせると、荒れ狂い、すべてを焼きつくし家や財産、時には命までも奪ってしまつた。このような驚異と恩恵の二面性を持ち、生活に深く関わる火の神を、人々は崇め祀る様になった。

これ等の神の大元締めが火之迦具土神であると言える。

秋葉神社の総本山は静岡県の秋葉山本宮秋葉神社である。はじめて社殿が建つたのは和銅2年(709年)といわれ、古代は秋葉山が御神体とされていた。

秋葉神は山岳信仰からはじまり、中世になると神仏習合を経て秋葉山大権現として信仰されるようになる。一に剣難、二に火難、三に水難の神といわれ武士の崇敬を集めた。

江戸時代の江戸は、絶え間なく火災に見舞われた。江戸庶民は各地に秋葉講を結成し、秋葉信仰が広まり、秋葉山詣でが賑やかになる。東京秋葉原も当時の信仰の名残と伝えられる。



歳旦祭

一月元旦、午前九時〜拜殿にて歳旦祭を催行。歳旦祭とはその年、初めて神様にお参りをする初詣であり、神社と地域住民の繁栄、五穀豊穣祈願し、年始をお祝いする神事です。宮司が祝詞を上げて、自治会と総代の役員が列席し、箏曲・春の海が境内に流れる中で厳肅に行われました。今年は瀬上宮司のお身内に御不幸があり、高鷲町切立の有松宮司に執り行っていただきました。



これ等の神の大元締めが火之迦具土神であると言える。

白鳥の大火と能登

白鳥の大火については、郷土史家・白石博男氏の郡上郷土史考を参照させていただきました。

明治40年（1907）4月3日夕刻。上之保村白鳥に大火が発生。当時の新聞によると、白鳥全戸206戸の内、153戸が全焼した。その他、半焼、倒壊も多く、殆んど全滅の状況だった。原因は電で炊事中、天井に積み置いた藁に点火して燃え広がった。

火は近隣の白鳥神社に移り始めた。皆で御神体の奉移に着手し、辛うじて捧げ出した。火は烈風に煽られ南に向かい、来通寺、白鳥大橋、郡上銀行、白鳥郵便局、登記所等を焼き払った。電柱、電線も焼失し、電信は不通となる。総損害額は約30万円。（米などの食べ物換算すると現在の約21億円に相当）

近隣の北濃、牛道、弥富、西川等の各村から村吏員総出で、罹災民の救助に着手。郡役所から炊き出し用米や雑品等の輸送を始めたが、八幡―白鳥間の道は人馬で大混雑、戦場の様であった。各町村は臨時議会を開き、寄付金の拠出を決めた。被災した人達は、数日は親戚などに厄介になったが、その後、焼け跡に八サノコ等を使い小屋を組み、藁で屋根を葺き、雨露を凌いだ。小学児童は白鳥小学校内に収容した。

狩り子が尽力したといわれる。

狩り子とは、高鷲村切立の官林から木を伐り出し、長良川に浮かべ、下流に流す仕事。その狩り子が白鳥に沢山泊まっていた、家財の持ち出しや消火に随分と活躍した由。白鳥神社の拝殿は焼けたが由緒ある本殿は、焼失を免れた。これは狩り子と、二日町の人達が必死に守ってくれたお陰と言われる。

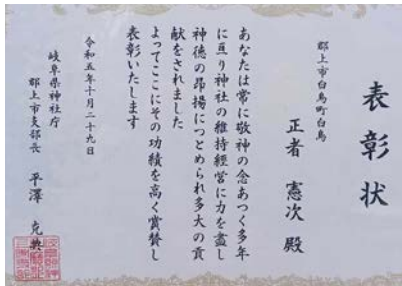


今年（令和6年）の元目夕方に能登半島に大地震が発生。輪島朝市が全焼した。その数、約300棟と言われる。白鳥大火の約2倍の家が灰燼と化した。地震と相まって、逃げるだけが精一杯だったようです。

117年前の白鳥大火を文献で知るにつけ、白鳥神社も多くの人に助けられたと認識を新たにしました。今の輪島が他人事と思えません。原因は違いますが、総てを焼失し、避難を余儀なくされた事には変わりありません。苦しむ人に寄り添う事が、人の道ではと思います。

正者憲次氏 表彰

貴殿は平成二十五年に神社総代に就かれ、平成二十七年からは白鳥神社社守補佐として、神社の護持運営に献身的に務められました。神社の行事総てに深く関わって頂き、その功績を誇ることもなく、常に黙々と務められ、神社にはなくてはならない存在でありました。その功績により、この度岐阜県神社庁郡上支部長の表彰を受けられました。白鳥神社といたしましても喜ばしい事であり、これを機に今後とも、総てに渡り、ご指導、ご鞭撻下さらんことを衷心よりお願い申し上げます。



総代新陣容

この三月で総代の広瀬康広様、曾我雄介様、神谷忠孔様、木下好弘様、高橋元之様、が退任されました。長きに渡り、白鳥神社に対しまして、篤いご支援、ご協力、誠に有難うございました。四月からは左記の陣容で護持運営に当たります。変わらぬご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。（赤字は新任です）

- 一号組……………野崎克美
- 二号組……………曾我和弘
- 三号組……………古家孝一
- 四号組……………別府喜利

- 五号組……………日置紀寛
- 六号組……………三島 繁
- 七号組……………野々村薫
- 八号組……………野崎正和
- 九号組……………白井幸夫
- 十号組……………松山幸盛
- 十一号組……………日置捷司
- 十二号組……………田口 学
- 十三号組……………野崎正博
- 十四号組……………猪俣 強
- 十八号組……………須甲真司
- 十九号組……………渡辺 剛
- 宮司・瀬上孝男、社守・曾我幸男、補佐・正者憲次
- 総代長・古屋孝一、副・足立好教、副・三輪規裕
- 監査役・曾我 誠、内ヶ島朗、相談役・瀬木重瀧

祈年祭・初午祭

市会議員始めとする御来賓、自治会役員、各組長、総代、計43名の出席のもと、三月三日、白鳥神社祈年祭、白鳥稲荷神社初午祭を厳肅に執り行い、本年の国家安寧、五穀豊穰、商売繁盛を祈念いたしました。

令和六年四月からの行事予定

- 4/1……………宮の森34号発行
- 4/3……………防火祈願祭・秋葉神社自治会主催
- 4/14……………初宮神事・新旧総代歓送迎会・宮掃除
- 5/3……………稲荷神社例祭神事
- 6/7……………自治会・総代会二役会議
- 6/23……………宮掃除（自治会と共同）
- 7/14……………境内・秋葉神社草刈り清掃
- 7/19……………例祭打合せ会議・神楽幹部・総代三役
- 7/21……………初宮神事

御寄進・ご奉仕

- 一、篝火焚き器修理……………日置紀寛様
- 一、樺古木のライトアップ設備……………足立好教様
- 一、稲荷神社ライトアップ設備……………足立好教様
- 心温かいご寄進、ご奉仕、誠に有難うございます。

御朱印受付

ご希望の方は0575(8)2-43887・瀬上宮司まで
(文責・瀬木)